

# 公立大学法人福岡県立大学

## Ⅰ 全体評価

### 1 総評

公立大学法人福岡県立大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質をもった優秀な職業人を育成することを最も重要な使命としている。

今回実施した中期目標期間評価の暫定評価は、平成18年度に法人化し、6年間の中期目標期間が平成23年度に終了することに伴い、次期中期目標に向けての法人の組織及び業務全般のあり方等についての検討に資するものとするため、中期目標期間の終了前に、中期目標期間の業務実績について暫定的な評価を実施したものである。

具体的には、中期目標期間の4年経過時における中期目標の達成状況を基本として、中期目標期間の5年度目である平成22年度の業務実績の評価結果及び認証評価機関の評価結果を踏まえて実施した。

なお、平成23年度までの6年間の業務実績については、中期目標期間終了後にあらためて評価結果を確定させることとしている。

評価の結果、中期目標項目7項目中2項目（社会貢献、財務）について、中期目標の達成状況が「非常に優れている」と評定、他の5項目（教育、研究、業務運営、評価、情報公開）について「良好である」と評定した。

理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めている。特に社会貢献に関しては、地域住民の健康・福祉の向上のための取組を積極的に展開しており、中期計画を上回る取組が多数認められたところであり高く評価する。また、財務に関しても、外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、数値目標を大幅に上回る収入実績をあげていることを高く評価する。以上のことを踏まえ、中期目標の達成状況は、全体としては良好であると認められる。

なお、平成22年度に受審した認証評価においては、大学の教育研究活動等の総合的な状況について、「大学評価基準を満たしている」と評価されている。また、併せて受審した選択的評価事項である「研究活動の状況」について「目的の達成状況が良好である」と評価され、「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」について「目的の達成状況が非常に優れている」と評価されている。

今回の暫定評価を通してあらためて確認した課題及び今後の取り組むべき方策については、課題解決に向けた組織的対応を更に推進し中期目標の着実な達成に努めるとともに、次期の中期目標・中期計画の策定に反映され、法人の継続的な質的向上に資するものとされたい。

少子高齢化やグローバル化の進展など、大学を取り巻く社会環境が変化する中、福岡県立大学は大学の個性・特色を一層明確にし、将来にわたって県民の期待に応える魅力ある大学づくりを更に推進されることを期待する。

## 2 業務の実施状況

教育、研究、社会貢献に関する業務については、中期目標の達成状況が良好であると認められる。

教育について、文部科学省の平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に「不登校・ひきこもりへの援助力養成教育」が、平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」が、平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」に「就業力向上を目指す社会貢献支援プログラム」が選定されており、教育内容の充実に積極的に取り組んでいる。

福岡県立大学の教育の特色となる人間社会学部と看護学部の連携による他の専門領域を学べる教育プログラムについても、内容の充実を図り、受講者が大幅に増加するなど、着実な進捗が認められるところであり、今後の一層の発展に期待する。

社会貢献については、地域住民の健康・福祉の向上のための各種健康教室や資格・免許保持者へのリカレント教育、不登校・ひきこもりサポートセンターにおけるキャンパス・スクールや相談事業等、社会貢献・ボランティア支援センターにおける大学、学生及び地域が連携した社会貢献活動の支援等に積極的に取り組んでおり、高く評価する。

福岡県立大学は設立当初から地域振興の役割も担っており、地域に開かれた大学として着実な成果をあげている。今後も地域との連携のもと、社会貢献活動に積極的に取り組まれることを期待する。

## 3 財務状況

財務については、中期目標の達成状況が非常に優れていると認められる。

教育研究等に関する競争的外部資金の獲得に積極的に取り組むなど自己収入の増加に努めるとともに、業務の見直し等による経費の抑制に取り組んでおり、一定の成果が認められる。特に平成21年度以降は大型の教育等に関する外部資金の獲得により数値目標を大幅に上回る実績をあげており、高く評価する。

今後とも、継続的な経営改善に努めるとともに、適切な予算管理と戦略的・効果的な予算配分を推進されたい。

## 4 法人のマネジメント

業務運営、評価、情報公開といった法人のマネジメントについては、中期目標の達成状況が良好であると認められる。

理事長のリーダーシップの下、運営体制の整備、事務処理の効率化、任期制実施、教員個人業績評価の実施等、法人化のメリットを活かした取組を着実に進めている。

今後とも、事務局機能の強化等運営体制の改善を図るとともに、適切な評価の実施、情報公開の推進に努められたい。

## II 項目別評価（中期目標項目別評価）

### 1 教育

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

#### （1）教養教育の充実

- ・教養演習テキストについて、学生による編集委員会を設置し、学生の意見を取り入れた「レポートの書き方入門」を出版するなど、教養演習の工夫・改善に努めている。

#### （2）専門教育の充実

- ・両学部の連携による他の専門領域を学べる教育プログラムを導入し、受講者が増加している。
- ・「不登校・ひきこもりへの援助力養成教育」が、文部科学省の平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に選定された。
- ・「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」が、文部科学省の平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に選定された。
- ・「就業力向上を目指す社会貢献支援プログラム」が、文部科学省の平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」に選定された。

#### （3）教員の教育能力の向上

- ・学部のFD活動（※）に加え、大学院のFD活動にも取り組むなど、FD活動強化への積極的な取組が認められる。

※FD（ファカルティ・ディベロップメント）

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称

#### （4）学生の確保

- ・オープンキャンパス、入試説明会、高校訪問、出前講義等の入試広報活動について数値目標を上回って実施しており、また、入試会場として新たに鹿児島会場を設けるなど、質の高い学生の確保に積極的に取り組んでいる。

#### （5）成績評価

- ・看護師をはじめとする各種国家試験合格率の向上に努めており、高い合格率を維持していることを評価する。

## (6) 学生への支援

- ・キャリアサポートセンターのスタッフ配置日数の増加及び利用促進、インターンシップ参加者や各種就職ガイダンスの拡充等、就職支援体制の強化に努めている。

## 2 研究

評価	4 : 中期目標の達成状況が良好である。
----	----------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・附属研究所において、生涯福祉研究センター（人間社会学部）、ヘルスプロモーション実践研究センター（看護学部）の独自の研究プロジェクトや両学部連携による共同研究プロジェクトに積極的に取り組み、数値目標を上回る実績をあげている。

## 3 社会貢献

評価	5 : 中期目標の達成状況が非常に優れている。
----	-------------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施するとともに、目標を大幅に上回る取組や中期計画に掲げる事項以外にも社会貢献に関する積極的な取組が多く認められたことから、特筆すべき実施状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・大学の知的資源を活用し、地域住民の健康・福祉の向上のための各種健康教育事業や相談事業、資格・免許保持者等に対する講習会、シンポジウム等に積極的に取り組んでいることを高く評価する。
- ・平成19年度に開設した不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、学生による県大子どもサポーターの派遣事業、キャンパス・スクール事業、教員対象研修事業及び相談事業等、活発な活動が行われていることを高く評価する。
- ・平成20年度に糖尿病看護認定看護師教育課程の認可と併せて看護実践教育センターを設立し、認定看護師の養成を中心とした看護実践教育を実施している。
- ・「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業」が、内閣官房・内閣府の平成20年度「地方の元気再生事業」に選定されており、田川地域の活性化に積極的に取り組んでいる。
- ・平成20年度に第28回日本看護科学学会学術集会を開催し、全国から約2,700名の参加を得ている。
- ・平成21年度に開設した社会貢献・ボランティア支援センターにおいて、大学、学生及び地域が連携した社会貢献活動の支援を行っており、地域貢献に積極的に取り組んでいることを高く評価する。

- ・アジアの大学との学術交流に取り組み、新たに4つの大学と交流協定書、覚書を締結しており、交換留学生数が増加している。また、ウェブサイトについても、英語版に加えて中国語版及びコリア語版を開設しており、国際交流の推進に努めていることを評価する。

#### 4 業務運営

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・法人化後、全教職員を対象とした大学改革セミナーを開催するなど、教職員の意識改革に積極的に取り組んでいる。
- ・教育研究組織の見直し、国際交流業務スタッフの配置等事務局体制の強化、任期制実施、教員個人業績評価の実施・改善等、運営体制の改善と人事の適正化に努めている。なお、教員個人業績評価については、制度の目的に沿った、より適切なものとなるよう改善を図られたい。
- ・ヒヤリハット報告に基づく実習事故防止の対策、感染症予防対策、学生の健康管理の強化等、安全管理体制の充実に努めている。

#### 5 財務

評価	5：中期目標の達成状況が非常に優れている。
----	-----------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施するとともに、自己収入の増加の取組において目標を大幅に上回る実績をあげており、特筆すべき実施状況であると判断し、5と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、数値目標を大幅に上回る収入実績をあげていることを高く評価する。特に平成21年度以降は、大型の教育等に関する外部資金の獲得により、それまでの実績を大幅に上回る収入を得ている。
- ・時間外勤務縮減の取組や、退職教員（教授）の後任を講師等で補充するなど、人件費抑制に努めた結果、数値目標を上回る実績をあげている。

#### 6 評価

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・自己点検・評価の実施・公表及び外部評価機関の評価結果の大学運営への反映等、厳正な評価の実施と評価結果の活用に努めている。

## 7 情報公開

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

平成18年度から平成22年度までの5年間の業務実績については、中期計画を着実に実施し目標を達成していることから、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・ホームページの改訂、情報管理体制の整備、個人情報保護規程の制定等、情報公開の推進に努めている。